

# デジタルからの逃避行

## ～古民家を利用した新しいブックホテル～

深刻な空き家問題に、ネット社会による人々の疲労。どこに住んでいようと私たちの生活に、問題は尽きない。

そこで、鹿児島の自然豊かな古民家にデジタルデトックスを取り入れる提案をする。

古民家を利用してデジタルから逃れることで、人々の生活環境の改善や、地方活性化をも図った。



提案敷地：南九州市川辺町

### 01| 現状

空き家の増加が全国的に社会問題化している。田舎や辺鄙な所に特に多く点在する空き家は、環境悪化や不法投棄、放火の原因に繋がっている。この中で、全国的に見て鹿児島県の空き家は苦しい状況にあり、早急な対策が求められている。

また、ネット社会の今、私たちはスマートフォンやパソコンといったデジタル機器に囲まれて生きている。コロナ禍も相まって、仕事でもプライベートでもデジタル機器を利用する場面が増え、仕事とプライベートの切り分けが難しくなっている。私たちはそんな画面上の生活に、心身ともに疲弊しきっている。

対象の古民家は、現在住人はおらず放置されている。少々傷みは確認できるが、少しの補修で今後も長く利用出来る状態である。部屋には過去の住人の本が残っており、活用が期待出来る。



### 02| コンセプト

空き家をブックホテルに改修することで、デジタルデトックスとして利用する。

デジタルデトックスを望む需要と空き家増加の供給を合致させた。また、空き家の立地を生かして自然溢れる空間にブックホテルとしてデジタルデトックスの場を設けることで、都市の喧騒からも心を休める空間にした。

### 03| デジタル・デトックス

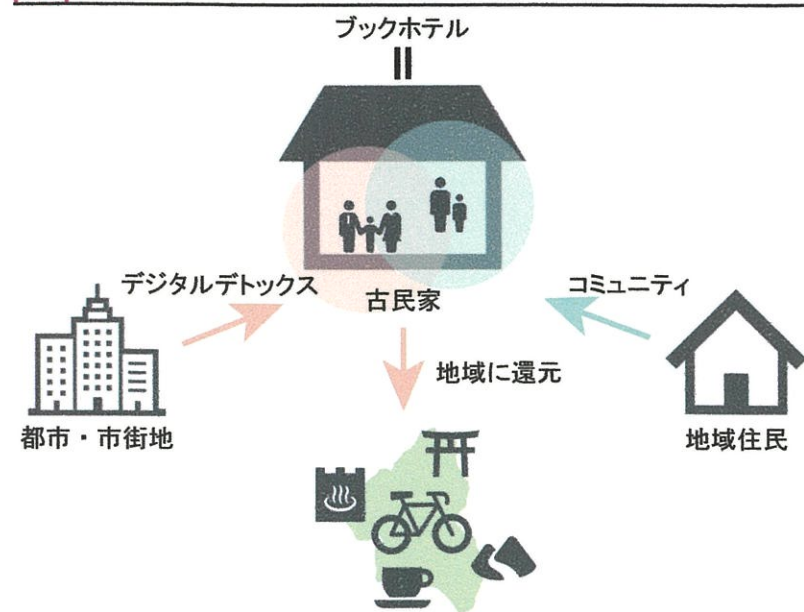
デジタルデトックスとは、一定期間デジタルデバイスと距離をおくことである。ネット社会から離れることで、コミュニケーションや自然との繋がりを大切にすることで、ストレスの軽減や身体的回復を望む。

#### デジタルデトックスの問題点

- ・決心するのに時間がかかる
- ・途中で心が折れる
- ・ハードルが高い
- ・面倒くさい（キャンプ等をする場合）

古民家に泊まるだけなので、多くの準備は必要がなく気軽にデジタルデトックスを可能に。

### 04| システム



- I. 空き家をデジタルデトックスの場とすることで、都市や市街地から人が来る。
- II. ブックホテルとすることで、日常のデジタルに占めた時間を本やコミュニケーションに置き換える。
- III. 外から人に来てもらうことで地域にお金を落としてもらう。

- i. 地域住民がコミュニティを求めて来る。
- ii. 地域内外の人々の間にコミュニケーションが生まれる。

地域活性化の一助になる

#### 自転車圏内の観光地



宿泊客は倉庫の自転車を借りて周囲の観光地を回ることが可能。自分の足で地域を回ることによって地域の魅力がより良く伝わる。



## |05| 平面計画



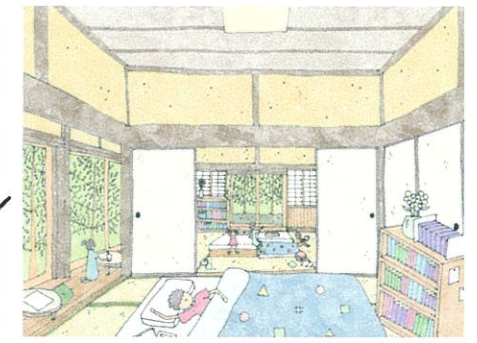
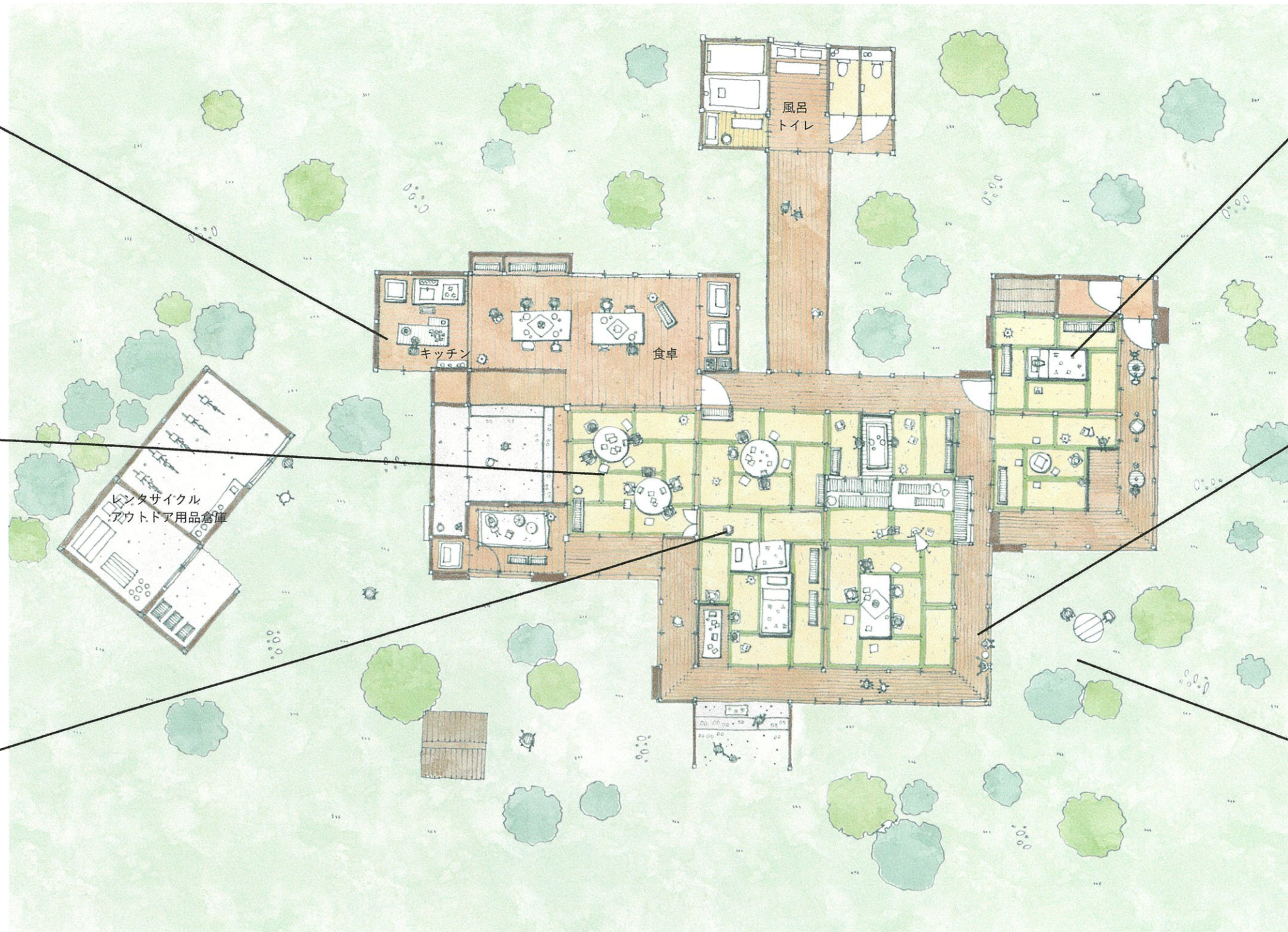
・食事  
ホテルの来客者や地域住民が食料を持ち込む。皆で食卓を囲み、会話が弾む。



・ワークショップ  
畳の上に自由にくつろぐ。時にはワークショップが開かれる。地域にも開かれた空間になる。



・読書  
好きな場所で好きな体勢で読書が可能。畳を動かすもよし、ちゃぶ台を動かすも良しの、自分で工夫して過ごす空間。



・寝室  
宿泊者は好きな空間で寝ることが出来る。畳を持ち上げてベッドにする。寝具は畳の下の本棚に収納。

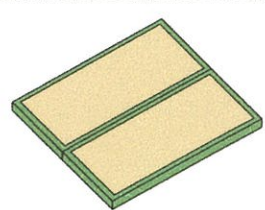


・子どもの遊び場  
外で遊ぶ子供たちを横目に、縁側で読書をする。風にあたりながらゆっくり時間を過ごす。



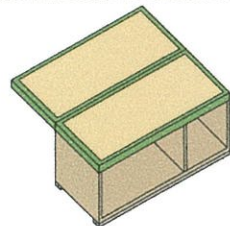
・庭  
庭で自然を感じながら読書をする。木陰で地域住民とお茶をたしなむ。

## |06| ダイアグラム



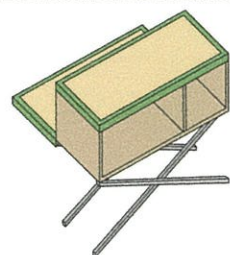
1. 既存の畳を用いる

古民家の畳をそのまま利用することで、畳というアイデンティティを存続した。



2. 畳の下に棚を備え付ける

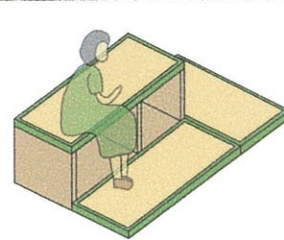
収納がない古民家で、畳の下に本とホテルの来客用布団を収納する。



3. 足を付けて可動式にする

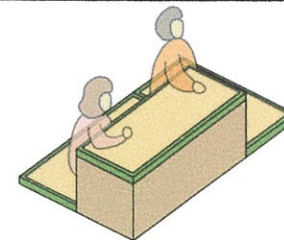
畳を持ち上げたり下げたりできる。上下に動かすことで椅子や机、ベッドへと簡単に可変する。

## |07| 畳の使い方



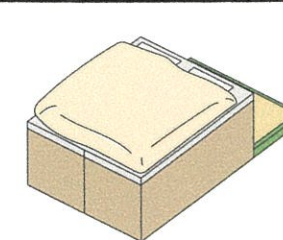
1. 椅子

畳を持ち上げて椅子として利用することができる。畳を下げれば掘りごたつのようなにもなる。



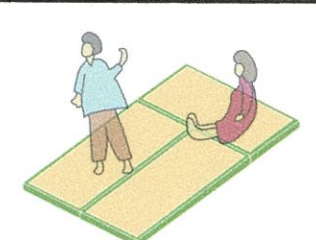
2. 机

畳を持ち上げて机として利用できる。机を囲んで団らん、お菓子を摘みながらの読書も可能。



3. ベッド

棚の木の隙間から布団を引っ張り出す。畳を持ち上げ、好きな空間にベッドを作ることができる。



4. 大空間

畳を動かさなければ、元の大空間がそのまま利用できる。寝転がったり、ワークショップをする空間にもなる。